

平成23年1月17日（月）18:30～20:35 三重県伊賀庁舎

- 1 あいさつ(山口副教育長)
- 2 設置要綱(案)の確認・承認  
委員自己紹介 会長・副会長の選出(会長＝岩崎委員、副会長＝梶原委員)
- 3 報告事項等
  - ・ これまでの伊賀地域高等学校再編活性化推進拡大協議会での協議(梅澤副室長)
  - ・ 伊賀地域高等学校再編活性化協議会名張分科会(梅澤副室長)
  - ・ 名張3校活性化ワーキング(名張桔梗丘高校・前田校長)(報告事項等に対する質疑)

**味岡委員** ワーキングの報告は、名張の3校と名張市の間でまとめられているが、伊賀市からも名張の高校に行っているのので、伊賀全域からみて論議する必要がある。

**前田委員** ワーキングは前年の名張分科会を受けてできた経緯がある。広い視点で協議しなければならないが、まずは名張という範囲の中で議論した。

**味岡委員** 伊賀白鳳高校についての議論の中でも、伊賀市の学校には名張の生徒も来るからという議論であった。

**福岡委員** これからも伊賀全体というスタンスでよいか。

**事務局** 分科会とワーキングの協議を拡大協議会という場で報告している。これから伊賀全体の高等学校を議論していただく。

**山口副教育長** 名張3校のことだから名張でということではなく、協議のまとめにも伊賀は一つという言葉があったが、伊賀・名張を一つで考えていただきたい。

**会長** 伊賀・名張を一つの地域と考えて、今後検討していきたい。特に中高一貫など新しいタイプの学校を模索したり、部活動や地域の関係ということになると、「市」の枠を越える形での議論になるだろうと思う。

**田山委員** 近大高専は名張の中学生がどれくらい進学するイメージか。

**藤本委員** 募集を伊賀管内一円としており、地元企業からも客員教授の募集をかけている。数字が出てみないとわからないが、第1希望として行きたい生徒はあまりおらず、現時点としては大きな影響がないと考えている。
- 4 協議事項  
資料説明(再編活性化基本計画、再編活性化第3次実施計画、資料3～6)  
(資料についての質疑)

**上島委員** 資料3について、現小学校5年生の学年は減少することは大筋としてわかるが、増減の仕方が名張市の把握とは異なる。どういう形で社会増をみているのか。

**事務局** 流出と社会増減の割合の複数年度の平均を掛け合わせて算出しているのので、実際の在籍者数とは異なる。

**中谷委員** 資料3について、旧青山町からの通学等のことを考えると、伊賀北部と伊賀南部という分け方も必要である。その数値があれば教えてほしい。

**事務局** 社会増については、学年が代わる際の過去の増減率の平均を掛け合わせて算出している。伊賀北部と伊賀南部の数値は次回の資料として出させていただく。

**田山委員** 資料5で合格者総数と入学者数が同じであるが、合格しても辞退する者はいないのか。私立高校に合格して公立を辞退する場合があるのではないのか。

**事務局** 合格発表後の早い段階で辞退があった場合は追加で合格を出して定員を充足す

る。希望する私立高校に合格した場合には、公立高校の後期選抜を受検しないという場合が多い。

**田山委員** 合格できる高校を受検させるという中学校の進路指導の結果、不本意入学をする生徒が出てくるかも知れない。そういう生徒についてはどうなるのか。

**田中委員** 従前とは違って、かなり子どもたちの希望に沿って受検している。後期選抜志願時には、私立高校の結果が出ており、県立高校を受けて不合格の場合は、併願で合格している私立高校に行くことになる。

**上島委員** 例外的な場合はあるが、県立高校の合格者と入学者はほとんどかわらない。

**福岡委員** 保護者の立場から発言すると、特に伊賀市は交通が不便であり、子どもに近くの学校に行ってほしいというのが強い思いである。

(協議)

**会長** 再編活性化の検証には、①3学級から8学級としている適正規模について、②適正配置、学校の魅力化・活性化について、③定時制の教育について、④協議会で意見を聴きながら進める再編活性化の進め方についての4つの柱があると考えている。まずは、論点にこだわらず、再編活性化計画がどのような点で達成され、どのような点で課題が残っているのかという部分でご意見をいただきたい。

**中谷委員** 再編活性化の協議の進め方について、これまで分科会やワーキングに参加してきたが、参加者が教員やPTA関係者などに限られ、内々の議論でしかない。地域にとっての高校ということを考えると、広く地域からの声を集めたいと思う。今後も地域にとっての高校の在り方、地域にとってどんな高校が必要かという視点で、もっと広く意見を聞ける協議の場を持っていきたいと考えている。

**味岡委員** 学校の規模が小さくなると活性化はむずかしい。一定の学級数がある高校をつくるためには、学校を減らさざるを得ないのではないか。名張市には高校が3校あって、普通科高校が2校あるが、今後、活性化につながっていくのかが、この場の一番基本的な論議だ。伊賀市にあった3つの高校は伊賀白鳳高校となって部活動の内容や教育内容が活性化をしている。

**中谷委員** 同じような話は名張でも出ているが、その中で中高一貫教育校という案が出てきた。これについては学級数が少なくても学校として成り立つ。

**味岡委員** 中高一貫は非常に難しい。理想的にできれば中高一貫校が一番いいと思うが、手法的なことや保護者の選択が様々であることから簡単にはいかない。

**会長** 平成24年度以降の再編活性化でまず議論していかなければならないのが学級数、そして学校の数の問題ではないかという意見であった。平成17年度の「協議のまとめ」では平成23年度は34学級程度という予測がされ、A案とB案という議論をしていたが、平成24年度以降はこの予測を下回ってくると考えなければならない。

**事務局** 現在はB案ですすんでおり、上野高校については8学級とあるが平成23年度は7学級となっている。そのほかの学校はB案のとおりである。

**味岡委員** 最初は伊賀市の3校統合にはたいへん抵抗があったが、もしその取組をしていなかったらと考えると、やはり伊賀白鳳高校として統合すべきだったと感じられる。

**会長** 平成24年度以降の再編活性化では、B案から普通科高校や総合学科の再編を視野に入れて考えていかなければならない。活性化ワーキングからも出されたが、学級数については5学級はなければならないということである。今後、5学級を下回る場合には、何らかの統合を考えざるを得ないということが考え方としてはあると思う。

**上島委員** 伊賀地域では平成17年度に協議が行われたが、ここ数年で、家庭の経済状況が厳しく進学が地元志向になり、県立高校の果たす役割は大きくなるなど、名張市の状況はかわってきている。また、数年前の予測よりも子どもの数が減らない地域も

ある。地域の学校を大切にする一方で、子どもたちが一定の集団生活の中で教育を受けることも大切であり、その兼ね合いは非常に難しく、慎重に検討していく必要がある。

**廣岡委員** 生徒数の推移は、何年後かの高校の再編について審議していく資料であり、極めて正確な数値でなければならない。また、広く保護者の意見を聴いていくということも取り組んでいただきたい。

**福岡委員** 伊賀市の保護者の立場から、子どもを伊賀市の学校に行かせたいが、上野高校が1学級減ったために、1学級分が名張の高校に行かざるを得なくなった。

**山口副教育長** 卒業予定者数は伊賀市と名張市の両方を見ながら、入学定員を策定している。

**福岡委員** 伊賀市の場合は電車がなく、交通が不便であるという状況は理解していただいていると思うが、これからも議論していただきたい。

**田中委員** J R 沿線の中学校から名張の高校に行くのは不便なので、場合によっては亀山や津にますます流出することも考えられる。

**会長** 本日の議論は初回でもあり、再編計画の進捗状況をすべて議論するわけにはいかなかったが、次の計画への視点のようなものはいくつか提案があったと考えている。今回はこの続きから、もう一度この協議事項の項目を議論させていただきたい。